

コカブトムシを神戸市多井畑で採集

内 田 雅 一

多井畑へは1980年から毎年採集に行っているが、コカブトムシを初めて採集することができたので報告したい。

1985年、5月19日、PM3:00頃、晴天無風、住宅地域の近くの雑木林を200m程入った所にあるクヌギの木の地面から20~30cmの高さにある、直径約50cmの洞の中の枯れ葉を取り除いてみたところ、コカブトムシ1匹の完全な個体を発見し採集した。(この付近には、まだ少数の個体がいると思われる。)

コカブトムシ *Eophileurus chinensis* Falaermann 1♂, 神戸市多井畑 19-V-1985
体長21mm。

ツノブトホソエンマムシ神戸市内で採集

(兵庫県甲虫相資料・163)

高 橋 寿 郎

日本産のホソエンマムシ科は5種とも4種とも云われている(N. itoiとN. osorioicepsは同一種ではないかとのこと、久松、1985)。この4種ともLewisが1885年“On a new genus of Histeridae (Trans. Ent. Soc. Lond., pp. 331-334)”の中に記載された種である。三輪勇四郎博士は1934年“Niponiidaeの解説”と題する大変有益な解説論文を発表されこの仲間を図説して下さった(昆虫界, Vol. 2, No. 11, pp. 476-486, pl. 81)。一般的には小さい種の関係から余り関心も示されなかった様な気もする。図鑑では原色昆虫大図鑑(1963)で2種、原色日本甲虫図鑑Ⅱ(1985)で3種図説されている。

兵庫県下からは従来1種ヒメホソエンマムシ *Niponius osorioiceps* のみが知られているだけであった(Parnassius, No. 29, 1983)。

1984年6月21日神戸市内烏原貯水池畔の土留材の上を歩行中のツノブトホソエンマムシ *N. obtusiceps* Lewis, 1885 1♂を採集した。本種はLewisが“Oyayama (Higo), Ishikari river (Yezo)”を産地に記載された種である。(l. c., p. 334, t. 8, f. 20-23)。

原記載以後図説としては三輪博士のものがあり (l. c., p. 484, pl. 81, f. 7), 林 長閑博士が生態について図説されたものがある (昆虫と自然 Vol. 9, No. 10, p. 29, グラビア 1, 1974), 更に久松定成氏による検索表もある (l. c., p. 219, 1985)。分布は北海道, 本州, 九州でキクイゾウムシ類の孔道で発見されるとある。兵庫県下からは初めての記録になる。ホソエンマムシ *N. impressicollis* Lewis の方も県下で発見される可能性は充分ある。

兵庫県におけるセスジナガキマワリの分布

(兵庫県甲虫相資料・164)

高橋 寿郎

最近今坂正一氏は日本におけるハネナシセスジキマワリとセスジナガキマワリの分布に就いて発表しておられる (月刊むし No. 172, p. 23-25, 1985)。それによると両種共兵庫県での記録が無い。そこで手許の筆者の標本を調べて見るとセスジナガキマワリ *Strongylium cultellatum* Maklin が次の通りあった。明石市明石公園産 1♀, 7-VII-1979。神戸市烏原産 1♀, 17-VIII-1969, 1♀, 29-VIII-1980。また兵庫県下での本種の記録は川西市見野, 横地〔仲田, 1970, 1978, 1982〕。多紀郡篠山町〔山本, 高橋, 1962〕, 城崎郡城崎〔高倉, 1979〕とある。従ってこれ等を見る限り県下には広く分布している種のようなのである。採集の時期からして7月中旬頃から8月終り頃までに活動しているようにも思われる。ところで兵庫県下にはハネナシセスジキマワリ *S. apterum* Nomura et Yamazaki の記録もある (出石郡出石町城山・高橋, 1963)。本種の方は大体九州を中心に分布している種のようなので近畿地方での記録はほとんど知られていないが今坂氏によると福井県の雄島, 青葉山, 大島半島, 京都府冠島, 隠岐などの記録も紹介されている。兵庫県下で両種が共存しているのかどうかこれから調べて見たい点でもある。

(AUG. -1985)